

經濟論叢

第141卷 第6号

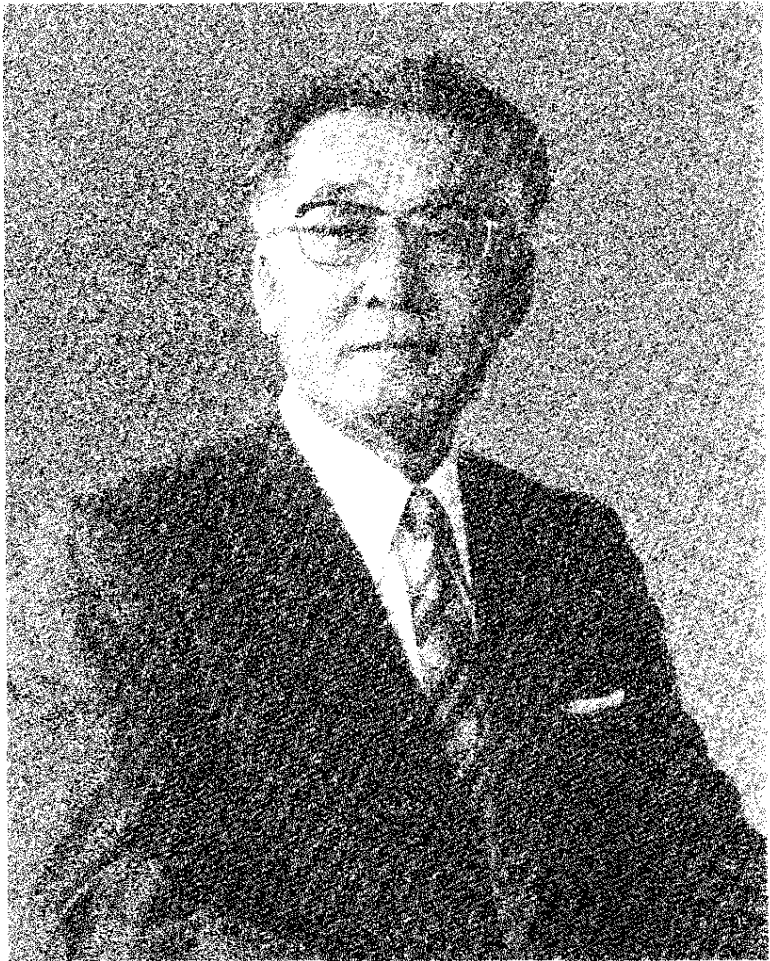
平井俊彦教授記念號

献 辞	尾 崎 芳 治	
世論の觀念について	阪 上 孝	1
J. S. Mill が社会科学研究的の 始源においたもの	山 辺 知 紀	19
資本制商品の物神性の根拠について	梅 沢 直 樹	43
レーニンの市場理論について	太 田 仁 樹	62
ジョン・ミラーとフランス革命	田 中 秀 夫	81
社会主義者の社会ダーウィニ主義観	保 住 敏 彦	100
ニューディールと民衆・序論	小 林 清 一	119
フランス・プロテスタント封じ込め政策 (1610-1661)	木 崎 喜代治	138

平井俊彦 教授 略歴・著作目録

昭和63年6月

京 都 大 學 經 濟 學 會



平井隆彦教授近影

平井俊彦 教授 記念論文集

献 辞

平井俊彦先生は、本年6月16日に63歳の誕生日を迎えられ、昭和64年3月末日をもって本学をご退官になることになりました。

先生は、昭和23年に京都大学経済学部を卒業されて以来、ひき続いて本学部に残られ、やがて社会思想史の講座をご担当になって今日に到られました。

昭和38年、『ロックにおける人間と社会』によって経済学博士号を取得されたことで明らかなように、先生はまず、イギリス啓蒙思想史の研究に取りくまれ、戦後の日本におけるイギリス思想史研究の先駆者となりました。

その後は、早くから深い関心を抱かれていたドイツを中心として広く中部ヨーロッパの現代思想の分野に足をふみ入れられ、とくに、G. ルカーチの研究においては、ここでもまた、先駆的な業績をあげられました。それ以降、フランクフルト学派の研究やそれに関わる著作の数多い邦訳などにおいて、第一線で活躍をお続けになっていることは周知のとおりであります。

先生は、また、日本学術会議の会員として、あるいは社会思想史学会の代表幹事として、わが国の学問研究の推進に尽力されたばかりでなく、後進の指導においてもつねに温かく熱心な配慮を示され、学内学外を問わず、多くの若い研究者にたいする指導や助言にも惜しみなく全力を傾けられました。

本学の行政面においても、先生には多大の重責を果していただきました。戦争直後の学部の諸困難を体験されたばかりでなく、さらにその後の諸々の苦難の時代に二度にわたって学部長を務められ、先頭に立って問題の解決のために献身されたのであります。

また、本学部の誇るべき上野文庫の受け入れや目録作成、その管理や運用にかんして、中心的な役割を演じられ、本学部の図書室の充実に果たしていただいた貢献は、言いつくせないものがあります。

京都大学経済学会は、先生の長年にわたるご功勞とご業績にたいして、心からの敬意と感謝の念をこめて、ここに、記念号を編集いたしました。先生のご指導の下に学ぶことのできた研究者のうちの若干の人びとの寄稿を中心になったこの一冊を、先生に捧げることができるのは、わたくしどものこのうえない喜びであります。

先生には、今後とも、ますますご清祥にお過ごしいただくことを願いつつ、刊行の挨拶といたします。

1988年5月

京都大学経済学部長 尾崎芳治